

## 令和 6 年度学校法人のびる学園

### 幼保連携型認定こども園のびる幼稚園事業報告

#### 1、園児募集

学年	年長	年中	年少	満三歳	2歳児	1歳児	0歳児	合計
幼稚園部	30人	30人	30人	20人	無	無	無	110人
保育園部	20人	20人	20人	無	12人	6人	3人	81人
定員合計	50人	50人	50人	20人	12人	6人	3人	191人
年度末 利用者数	49人	54人	50人	13人	13人	8人	1人	188人

当年度の最終在籍園児数は定員から 3 名少ない 188 名であった。学年間のばらつきもあることを考慮すれば、ほぼ定員が充足されている状態であるといえるが、当年度中に行った次年度入園募集活動は少子化の影響を感じるようになった。結果、新年度園児は定員 50 名に対し、5 名少ない 45 名の募集確定となった。また、近年保育教諭の確保が大変難しくなるなかで、支援の必要な園児は増加傾向にあり、職員確保数とのバランス的な運営がより重要になってきている。その為、職員の配置状況を常に注視し、園児の安全や育ちを担保する為に人員募集数や許認可定員の見直し等の検討の必要性も感じられる年度となった。

#### 2、保育計画及び教育計画

年度始めに 1 年間の全体目標及び学年目標を設定した。目標の達成率は、各学年でばらつきが感じられた為、綿密なスケジュール設定や管理、保育の計画等を構築する必要性を感じる結果となった。当年度は教員組織図を再考し、組織のチームワーク作りを行った。今後もチーム保育をさらに強化し、教育活動がより良いものになるように継続していきたい。

#### 3、学校評価委員会

当年度も引き続き学校評議委員の方々に来園していただき保育を観覧して頂き、後の委員会で忌憚のない意見を頂いた。委員会で頂いた意見は自己評価とともに纏めて、別紙にて報告する。

#### 4、設備の整備及び管理

当年度も、10,000千円を施設設備の更新や修繕の為に特定資産として積立てた。当年度は小規模な修繕が多く発生し、構築物や修繕費に関し補正予算を行った。設備等は大切に使用したいと考えているが、日々の保育により予想以上に劣化が早く急な修繕が必要となる状況や園児を安全に預かることを考えると多少の劣化でも修繕が必要になる場合があり設備の整備費や修繕費が嵩んでいると考えられる。当年度は、新安全基準外であった雲梯一台を撤去し新設した。雲梯の新設には、県の補助金を利用した。また、園庭の門扉が老朽化していたので、園児の脱柵防止も考慮し撤去新設した。園の正門と同じ製品を設置したが、物価高騰により以前に比べ倍近い費用を出費することとなった。

#### 5、採用及び人材育成

当年度は、次年度新規職員採用に至らなかった。年度内に1名の短期間就労希望の非常勤保育教諭及び1名の非常勤保育教諭を採用した。

#### 6、財務運営および運営管理

会計処理に関しては、適切に処理された。仕入れ価格の値上により物品等の値段の見直しを当年度も行った。また、同等品に関しては各社から見積を取り、少しでも値段の安いものを仕入れるようにした。物価高騰により殆どの経費が前年度よりも増額となった。物価高騰に対応する補助金があったので、電気・ガスの高騰分を補うことができた。

年度途中に人事院勧告により公定価格が改定された関係で年度末に改定された給与を全職員に支払った。このことにより財務の負担がかなりあった。今後はこの水準をどのように維持していけるかを検証していく必要があると思われる。

学校法人のびる学園

理事長 月野進